

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 読書活動推進費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

岐阜県図書館 管理調整係 電話番号：058-275-5111 (内 291)

E-mail：c21803@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 4,527 千円 (前年度予算額：3,012 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	3,012	1,486	0	0	0	0	0	0	1,526
要求額	4,527	2,244	0	0	0	0	0	0	2,283
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

各事業の実施により、県民の図書館活用促進や読書活動への意識の高揚を図る。また、県民自らの読書を通じた課題解決等への取り組みを支援する。

感染症拡大防止による会場の定員制限や、遠隔地で来館が困難な県民等に対し、全県民を対象としたオンライン配信を行うことで、県民の読書活動の推進、知的好奇心への対応の充実を図る。

(2) 事業内容

1. 読書活動支援事業

ア. 紺野美沙子名誉館長朗読会・講演会

岐阜県図書館名誉館長紺野美沙子氏を招聘し、朗読会・講演会を開催。また、遠隔地の読書活動推進を図るため名誉館長アウトリーチ事業として県内市町図書館1館と共催で朗読会を開催。いずれもオンラインによる動画配信を行う。

イ. 清流の国ぎふ・おすすめの1冊コンクール

県民の読書活動を幅広く推進することで、県民の文字・活字文化の振興に寄与するとともに、若年層の自ら学び考える力の育成を図る。

2. 図書館活用事業

- ア. イベントカレンダーの作成（年2回）
 - イ. 大人のためのブックトーク（年6回）
 - 大学教授等を招き、講師が自ら選んだ本の紹介をトーク形式で実施
 - ウ. 楽習会・夏休み特別講座「ことば調べをしてみよう」（年6回）
 - 岐阜大学教授等による公開講座を開催
 - エ. 新聞切抜講座（年2回）
 - 講座とともに、優秀作品の展示を開催（新聞社共催事業）
 - オ. 美術館、文化財保護センター、博物館等他機関との連携事業
3. こどもの読書週間イベント
- ア. 岐阜県の民話などの朗読会（朗読の指導者を招聘）
 - イ. 図書館探検ツアー（バックヤードを巡るツアーの実施）

（3）県負担・補助率の考え方

中核図書館として県において実施することが妥当

（4）類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	1,006	紺野美沙子講演会ゲストスピーカー等講演料等
旅費	39	紺野美沙子講演会ゲストスピーカー費用弁償等
需用費	83	消耗品費、会議費等
役務費	135	チラシ、パンフレット等送付
委託料	3,253	紺野美沙子朗読会・講演会委託料
使用料及び 賃借料	11	動画配信に伴う著作権料
合計	4,527	

決定額の考え方

4 参考事項

（1）後年度の財政負担

県図書館自ら読書活動を推進することは、当館の使命の根幹となっており、事業展開それ自体が県内市町村図書館等へのモデルを示すことになり、県全体の読書推進を図ることができることから必要性が高い。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/>	新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/>	継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 図書館の活用法を周知することで、県民が自ら課題解決に取り組み、心豊かな読書生活を営むよう図書館の活用促進を促し、間接的に情報共有・発信型図書館を推進する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R元)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R5)	達成率
① 読書活動支援事業 参加者数（累計）	4,788	5,979	6,380	6,790	7,200	83.0%
② 図書館活用事業参 加者数（累計）	239	520	780	1,040	1,300	40.0%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	（1）読書活動支援事業 参加者計 1,191 名 ・紺野美沙子さん朗読会（参加者 140 名・一部オンライン配信） ・同アウトリーチ朗読会（参加者 160 名） ・紺野美沙子さん講演会（ゲスト：刈屋富士雄氏）（参加者 125 名） ・清流の国ぎふ・おすすめ 1 冊コンクール（応募数 715 点） 同表彰式（参加者 51 名） （2）図書館活用事業 参加者計 281 名 ・楽習会（参加者 160 名・全 7 回）※ことばしらべは中止 ・大人のためのブックトーク（参加者 93 名・全 5 回） ・新聞切抜講座（参加者 28 名・全 1 回）
-------	--

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） <small>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</small></p>	
(評価) 3	<p>県図書館自ら読書活動を推進することは、当館の使命の根幹である。また事業展開自体が県内公共図書館へのモデルを示すことになり、県全体の読書推進を目指すことから必要性が高い。</p>
<p>・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） <small>3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 2	<p>図書館活用事業は参加も安定し、効果が得られている。県民の多様なニーズに応えるため、博物館、美術館、文化財保護センターとの共催事業を行い、他機関と連携した事業を開催している。</p>
<p>・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） <small>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</small></p>	
(評価) 2	<p>博物館や隣接する美術館と連携して事業を行い、互いの専門性を活用し、利用者の拡充を図ることができた。イベントカレンダーの継続的な制作により、催事の効率的な周知が可能になっている。</p>

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項</p> <p>講演会事業など、遠隔地など直接来館が困難な県民にも参加してもらい、特に若者が豊かな文化に触れ、読書活動へ繋げられる機会を増やしてほしいとの意見が岐阜県図書館協議会の場に出ており、アウトリーチ朗読会の他にも動画配信等で県内に読書活動推進事業の周知を推進する必要がある。</p>

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p> <p>県民のニーズは多様化しており、すべてに応じた事業を行なうことは困難であるが、幅広い年齢層を対象とした事業展開を継続的に行う。また、県内公共図書館と連携してアウトリーチ事業を効果的に展開し、県立図書館の役割として、全県域での読書活動推進を図る。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせる理由や期待する効果 など</p>	